

平成30年度西野田工科高等学校 第3回学校運営協議会（全日制部会） 議事録

日時：平成31年2月6日 午後3時～

場所：西野田工科高等学校 校長室

出席委員：（敬称略）関元、立石、田中、長谷川、矢野

学校関係：富田校長、小笠原事務部長、梶田教頭、山根首席、長澤首席

議事録

1. 開会

（委員長）あいさつ

2.

（1）学校の様子について

（校長）

- ・修学旅行は民泊の形態を継続したい。
- ・文化祭、芸術鑑賞などで、魅力ある学校行事を進める。
- ・芸術鑑賞では卒業生の熱い思いを聞いた。コミュニケーションの大切さを学べた。
- ・海外派遣研修の報告（台湾研修、工友会のバックアップによる実施）

（委員からの意見）

- ・海外派遣研修はよい取組みであると思う。継続して欲しい。（全員）

（2）学校教育自己診断の結果について

（委員からの意見）

- ・数値結果が微減しているが、一喜一憂するほどではない。学校環境の改善は明かである。

（校長）教員間の情報共有が課題と考えている。

3. 平成30年度学校経営計画及び学校評価（案）について

（校長）説明

（委員）

- ・働き方改革が進んでいるが、結果が出るのは数年後である。AIや外国人雇用も拡大する。
- ・工業系の資格、手に職を持つことが有利になる。コミュニケーション力が大事。
- ・離職率は機械系、電気系が良いのは、大企業であり、卒業生のネットワークあるから。
- ・進学した場合でも、大学の授業では工業高校の生徒の方が有利である。
- ・離職率が高いが、再就職率はわかるのか。

（首席）土木系の卒業生 17人が再就職しているので、悲観する結果と判断できない。

（委員）全員一致で報告案について承認。

4. 平成31年度学校経営計画（案）について

（校長）説明

（委員）「職工」＝「ブルーカラー」というイメージがあり嫌がる卒業生がいるのではないか。

（校長）「職工」とは、技術と社会性を持っているという解釈で使用している。次年度のキーワードは「繋がり」「外へ出ていく」ことである。

・「PBL（問題解決型学習）」については、「教えられたこと」ができれば良いという評価ではなく、「どんなふう考えたか」「どんなふうに参加したか」が重要である。

（委員）大学でもPBLや専門科の連携は当たり前である。1年から「機械」と「電気・電子」で横断した作品を作っている。これからは柔軟な発想が求められている。

（校長）小学校と連携しもさらに進める。

（委員）報告（案）について承認（全員一致）

5. その他

学校運営協議会に対する意見はありませんでした。

（参考）

平成30年度 大阪府立西野田工科高等学校 学校運営協議会（全日制部会）委員名簿

名前	所属等	備考
関元 忠義	西野田工友会（同窓会）会長	委員長
立石 健治	大阪市立八阪中学校長	
田中 克佳	大阪工業大学教務部課長	
長谷川 京子	みのり法律事務所弁護士	
堀 智恵	本校PTA会長	
矢野 裕史	株式会社大成CI代表取締役	